

柿崎眞吾さんを偲んで

世話人会代表  
十八回生 片山 章

思えば、昨年の千里山会の終了後、三分一さんと三名で日比谷の喫茶店でいろんなことを談笑し、「じゃまた会おう」と笑顔で別れたのが最後になるとは夢想だにしませんでした。

柿崎さんらしく病気のことも一切話されずでしたので、これからも千里山会の大久保彦左衛門として示唆を頂けるものと信じていました。今でも やー と言って現れる気がしています。

実は、柿崎さんと私は、一九九四年 第一回東京同窓会 から 一九九七年 第一回千里山会の三年間 毎日のお会いして千里山会の運営、未来像、名簿作成などを話し合い議論していました。

奇しくも、柿崎さんの勤務場所と私が転職した会社の本社が人形町で隣接しており、その上当該社の社長が柿崎さんと同期生の十四回生の田中（旧姓宇野）博さ

んというところで、否応なしに千里山会の創設に関わりあうことになりました。

当時の千里山会創設時には、日本のマスコミによく取り上げられた著名メンバーが、熱心に千里山会をバックアップしておられました。（敬称略）

飯島泰蔵 東工大教授（九回生）、  
黒川高秀 東大教授 医学部長（二十一回生）、  
藤田 田 日本マクドナルド社長（九回生）  
美川英二 横河電機社長（十七回生）、  
宇野 博 京樽社長（十四回生）、  
保富康午 作詞 作曲家（十四回生）、  
三笠洋一 東大野球部、新日鉄釜石ラグビー部長、  
南部敦子 日本代表のスプリンター（十八回生）、  
福山博壽 映画、テレビ、舞台 俳優（十四回生）  
他多数の方がおられました。

右記、個性 著名度際立つそれぞれの方々が、全て千里山会の設立に賛成され 会合への参加、会誌への投稿、特別講演にも積極的に行動して頂きました。

これは殆どが、柿崎さんの有言実行の行動力の結果で、毎日電話と直接面談に駆け廻っておられた姿が目に見えます。

もう一点、お手伝いをしていてほとほと感銘したのは、名簿の作成でした。こういう集まりは、同窓会でもなく、同期会でもなく同好会でもなく、千里山という大阪の郊外から関東に移住した人が対象という漠然として基盤の無い集まりで、その対象となる人物を探し出す苦勞は大変なことです。

でも柿崎さんは諦めず本当に微かな証があれば一人ずつ徹底的に探索して名簿に組み入れるということをしていられました。一人ずつ探し出し見つけたよ！と私に言われる時の満足そうな顔が忘れられません。

その結果として一九九四年の第一回東京同窓会の参加者は三十三名でしたが、三年後 銀座のライオンで開いた 第一回千里山会の創立総会は、三倍の一〇八名の参加者となりました。

いつも顔に出さずニコニコされていましたが、常に横にいて、整理をした私には分かりますが、このご苦勞は、壮絶なものがありました。

柿崎さん！ 今は天国でゆっくりされていると思います。ご苦勞された千里山会も過渡期ですが初期の理念を忘れず頑張りますので、時々天の声を聞かせてください。